



本学教員が関わった本

## 総合英語： 医療従事者として最も大切なこと

Douglas Paauw 著/岩田 淳ほか 編著  
三修社、2019年2月

紹介者

岩 田 淳  
(医学部 教授)

本書『医療従事者として最も大切なこと』（英題：What Matters Most? Stories that tell the heart of medical professionals）は、鳥根大学医学部の教員が、医学部と教育・研究交流を持つワシントン大学（アメリカ、ワシントン州シアトル市）のダグラス・パウ教授と共著で、日本で医療職を目指す学生を対象とした医学英語の教科書として2019年2月に三修社から出版しました。

本書は、パウ教授が医師としての体験、患者や教え子たちとの交流、家族への思いを綴った15のエッセイを題材として、医学部で医学英語教育を担当している私が中心となって、同じく医学英語教育に携わる玉木祐子嘱託講師（本学外国語教育センター）、マーフィー・リン助教（本学医学部医学科医学英語教育学講座）とともに、日本で医療職を目指

す学生の医学英語の学習に役立てることを目的に、医学分野の専門的な語彙力、読解力、表現力が身につくよう教科書のスタイルに編集したものです。



本書と付属音声CD

本教科書用のエッセイを執筆したパウ教授は、ワシントン大学医学部総合内科学講座の教授として、診療や研究だけでなく、医学部臨床教育プログラムのディレクターとして医学教育に長年携わってこられました。その医学教育や医学生のキャリ

ア支援における功績は高く評価され、ワシントン大学医学部のベストティーチャー賞を何度も受賞されています。また、日本語をはじめ4ヶ国語に翻訳され世界中の医学生に愛読されている『内科クラークシップガイド』（英題：Internal Medicine Clerkship Guide）やエイズの治療に関する専門書を数多く出版されています。本学医学部とパウ教授は、平成25年2月に初めて招聘して以来教育・研究交流を続け、毎年本学部にて様々な教育、研究に関するセミナーを実施いただいています。また、双方で医学生を派遣し、臨床実習の機会を設けるなど、積極的な学生交流も進めています。

今回、中心となって編著を行った私とパウ教授とは、パウ教授の初めての訪問時に医学英語の授業で講演を依頼したことをきっかけに交流を始めました。パウ教授がエッセイを書くのが趣味だと知った私が、医学英語の教材用にエッセイを利用させていただきたいと申し出たところ、快諾いただき、以降、医療職を目指す学生を対象とした教科書の形になるよう、私が中心となってパウ教授や編著者の協力を得ながら、英文のリライト、語彙・読解問題の作成、関連する英文の選定等の編集を行っ

てきました。編集においては、医学英語の基礎力、応用力の養成と、医学のジャンル特有の専門用語や内容をバランスよく学べるよう配慮しました。

4年前から国内の出版社に企画を持ち込み、2年前に大手大学教科書会社三修社が企画の採用を決定してからは、推敲を重ね、小テスト問題作成、教員用マニュアルの作成、音声のレコーディング等を経て、構想開始から6年の月日を経て、昨年2月に教科書として出版されました。

本書は、昨春より、国内8つの医療、看護、福祉系の大学、専門学校で医学英語の教科書として採用いただき、昨秋には増刷され、2020年度にむけ更に多くの大学、専門学校で利用される予定です。

本書が、医療職を目指す学生の英語力の向上に役立つとともに、医療職というキャリアについて深く考



著者・編著者らの写真：右から岩田、パウ、玉木、櫻井、マーフィ（敬称略）

え、患者、同僚、家族との信頼関係を築くきっかけとなればと思います。また、本書は一般の書店でも購入できますので、医療をテーマとし

た英文エッセイ集として一般の読者の方々にも読んでいただくと嬉しく思います。

